

令和元年9月9日

保護者各位

鳥栖市立田代中学校
校長 伊東 栄次

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査について

平成31年4月18日、下記のような内容で全国一斉に中学校3年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）
※平成31年度(令和元年度)より、新学習指導要領の考え方に則して、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に調査されています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
※学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校生徒の姿

(1) 国語について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率と比較して上回っていました。領域ごとに見ると、「書くこと」については全国を大きく上回っていました、その他の領域では、ほぼ全国の平均正答率と同程度または上回る正答率でした。
- ・無解答率、全国とほぼ同程度です。話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く問題では、全国8.9%に対し、本校は無解答率6.5%であり、書こうとする意欲がうかがえます。
- ・伝えたい事柄について根拠を明確にして書く問題や、書いた文章を読み返し論の展開にふさわしい語句や使い方を検討する問題では、全国と比べて高い正答率でした。他の問題については、全国と比べてほぼ同程度でした。

(2) 数学について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率をやや下回っていました。領域ごとに見ると、「数と式」「資料の活用」では、全国の平均正答率を上回っていますが、「図形」「関数」の領域では、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・無解答率は全国とほぼ同程度ですが、事象が成り立つ理由を説明する問題では、全国17.8%に対し、本校は無解答率10.8%で、自分の考えを書こうとしている生徒が多かったことがわかります。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明する問題や、事象が成り立つ理由を説明する問題については、全国より高い正答率でした。グラフ上の座標の差を表すものを選択する問題や反比例の表から式を求める問題、平行移動の意味を答える問題については課題が見られました。

(3) 英語について

- ・全体の正答率は、全国の平均正答率を下回っていました。領域ごとに見ると、「読むこと」

「書くこと」「話すこと」の領域で、全国の平均正答率を下回っており、他の領域でも全国の平均正答率をやや下回っていました。

- ・無解答率については、全国とほぼ同程度ですが、「話すこと」の領域での、聞いて把握した内容についてやり取りする問題や、交通手段に関する基本的な表現を理解して応答する問題に対しては、全国に比べて無解答率が低く、答えようとする意欲がうかがえます。聞いて把握した内容について適切に応じる問題については、全国 42.38%に対し、本校は無解答率 55.48%で課題が残りしました。
- ・日常的な話題について情報を正しく聞き取る問題については、全国より高い正答率でした。与えられた情報に基づいて、3人称単数現在事例の肯定文を正確に書く問題や、否定文を書く問題、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る問題については課題が残りしました。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校生徒の姿

- ・基本的な生活習慣では、「朝食を毎日食べてる」「毎日同じ時間に寝ている」と答えた生徒は、全国の割合を上回っており、朝食摂取の習慣や生活習慣の定着が見られます。しかし、「自分には良いところがある」と答えた生徒は、全国の割合を下回っており、自己肯定感を更に高め、自信を持たせることが課題です。
- ・「学校の規則を守っている」「いじめはいけないことだ」「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた生徒は、全国の割合を上回っており、規範意識が高い生徒の割合が高いことがわかります。生徒が過ごしやすい環境作りに、学校と家庭と協力して指導をさらに進めていきます。
- ・家庭生活では、「計画を立てて勉強している」と答えた生徒は、全国の割合を上回っており、学習習慣は定着している。しかし、「1日の家庭学習時間が30分未満である」と答えた生徒が全国の割合より高く、家庭学習の充実を図っていくことが必要です。

4 今後の改善策（生徒の力をさらに伸ばすために）

- ・数学、理科、英語の授業については、少人数授業やT T授業をさらに充実させます。また、ICT機器を活用し内容を視覚的に捉えさせ、生徒の学習意欲を高めたり、よりわかる授業の実践に取り組んだりしていきます。さらに、授業の中で考える場面、知識を活用する場面を意図的に設定します。
- ・自尊感情を高めるため、授業や学校行事の中に生徒の意見や考えを発表させる機会を多くとり入れながら、自信をつけさせるとともに、マナー検定を始めとするキャリア教育をこれまで以上に充実させます。ご家庭でも次のようなことに心がけてください。

1 家庭での学習時間をつくってください。【学習時間：学年＋1時間】

◎学習する時間や時間帯を決め、宿題のみならず学習する習慣を身に付けさせましょう。

◎携帯電話やゲーム機などの利用は、家庭の約束を大切にして、長時間にならないようにしましょう。

◎苦手教科やテストのやり直し等、復習を中心とした自主学習に取り組ませましょう。

2 お子さんとのコミュニケーションの時間を上手に使いましょう。

◎学校での出来事や読んでいる本の内容について話し合ひましょう。

◎将来の夢や就きたい職業等について話し合ひましょう。

3 がんばっていることや良くできたことをほめて、自尊感情を高めていきましょう。

